

學 報

Kobe College Bulletin

ISSN0389-164X

NO. 191

2021. 3. 16

神戸女学院

学報委員会

感謝のとき

学長 齊藤 言子

学長任期（2期6年）を満了し、この度、定年を迎えることとなりました。緊張感の中で走り続けたあつという間の6年間でした。最大級の覚悟を持って臨んだ就任式を昨日のように思い出しますが、学報の学長就任挨拶の写真は、今より数段若く（?）、時の流れをひしひしと感じています。

本学音楽学部教員としても、41年間（非常勤講師として8年、専任教員として33年）つとめさせていただきました。多くの思い出をたどりながら、総じて充実した恵まれた時間だったと改めて感慨深いものがあります。しかし学長職は私の人生の計画の中では想定外、晴天の霹靂のものでした。就任前の健康診断では様々な数値が命に係わるほどの重症レベルで、一刻を争いあらゆる精密検査に回されたのですが、結局悪いところは発見されず、急激な超過度なストレスのためとの診断となりました。そのような状態で重責に耐えることができるのかと不安のスタートでしたが、院長、執行部（副学長・教務部長、学生部長、入試部長、大学事務長）、日々の業務をお支えくださる学長室のスタッフ、そして音楽学部はじめ教職員皆様のご協力、お支えのもと、気が付けば健康状態はほぼ改善されていました。音楽学部では学生の声楽のレッスンもおこなっていましたので、音楽館と学長室の間の坂、階段を日に何回も駆け上り下りする毎日でした。そして大学でなにか不祥事が起きた折には記者会見などにもすぐ対応できるように、学長室のロッカーには黒のスーツを吊っておりましたが、これは出番が無くてほっとしています。

在職中の大きな課題の一つは、大学受験生である18歳人口が減少しはじめる2018年からの志願者問題



で、全国どの大学においても、その対策対応に必死に取り組んでいました。本学においても、神戸女学院がもっとも澆漑として誇りと自信に満ち溢れていた時代の良き教育体制を見直し、本来のリベラルアーツ教育を軸としながら、世の中の流れにも対応するカリキュラム改革がおこなわれました。学部を横断し専門以外の分野の学びを深めることも可能となっており、本学の教育内容、レベルは非常に充実していると自負しておりますが、それだけでは世間からの本学への関心を集めることはできないことを痛感しております。大学のアピールに関してははこの大学においても積極的にメディアなどを使い、あらゆる手段を用いての広報・発信競争となっているのが現状です。本学も「私はまだ、私を知らない。」

を大学のタグラインと定め、学びの可能性を深め、「女性のエンパワーメント」を視野に入れた広報には力を入れてまいりました。皆様もご存じの通り、電車（JR、阪急阪神、地下鉄など）を媒体とした交通広告も掲出してまいりました。それぞれのキャッチコピーは世間からの注目を浴び、特に「女は大学に行くな、」は大きな反響となり新聞、テレビなど広くマスコミにも取り上げられました。また戦後の学制改革による最初の新制大学としての70周年を記念し、国内外の各界で活躍するOG 20人が紹介された冊子「Stories」を発刊するなど内容のある広報活動もおこなってまいりました。が、世の中の目まぐるしいスピードで動いていく広報戦略は留まることを知らず、本学もIR部門を強化し、入試広報は重点項目として積極的に展開してゆかねばなりません。また年に複数回開催されるオープンキャンパスを訪れて、素晴らしい環境と模擬授業体験など、更に、この場に対応する学生スタッフにあこがれ本学への入学を決める高校生は多く、また、このような女性に育ってほしいと願う親御さんもいらっしゃいます。真摯に丁寧な志願者への対応を重ねていましたところに、今回の新型コロナの問題が大きいのしかかってきました。昨年の卒業式はなくなり、入学式も中止され、新入生は基本的なガイダンスの後、大学に足を踏み入れることなく、オンラインでの遠隔授業がはじまりました。新たな専門分野の勉強に加え、友人や課外活動など大学生活に抱いていた期待・希望はほとんど実現されず戸惑うことばかりの一年となってしまいました。9月には遅ればせながら、万全の感染対策のもと、5回に分けて、幾分簡素にはなりましたが、入学式として「新入生の会」を執りおこないました。みなほっとした喜びの表情がとても印象的でした。全学的には、原則オンライン授業の中、6月より必要最低限の対面授業ははじまりましたが、図書館などの施設利用は条件・制限のもとでのみ許されているというのが現状です。そのような状況下で、教職員はオンライン授業への対策対応（ハード・ソフト両面）、授業内容の質担保に全力を挙げて取り組み、学生たちも試行錯誤しながらも、積極的に対応し良く順応してくれました。学生、教員に対してのアンケート調査によりますと、当初は混乱の中でネガティブな反応もありましたが、慣れるにつれてオンラインだからこそのメリットも見つけ、前向きな学修に取り組めるようになってきているというのが現状です。どのような状

況下においてもプラスの要素を見出してゆくことは明日へのエネルギーにつながります。本学院では危機管理委員会を設け、政府の方針、危機レベルを基準に、授業形態、活動などの行動規範を定めています。一日も早い通常生活への回復は望むところではありますが、今後は、学び方、働き方、人とのかわり方、コミュニケーションのあり方など多くのことが変化してゆくことは必至です。学生たちにとりましては、非常時のこの経験が長い人生の中で必ず活かされてゆくでしょうし、またそのように教育をつなげてゆくことが今の大学に託されている重要な使命なのではないでしょうか。

対面授業がおこなわれず、また大学施設利用不可ということに対して、学生、保護者からも、学納金納付に対してのご意見なども頂戴いたしました。「授業料」は当該学期の教育活動を安定的に支える費用、「教育充実費」は「施設使用費用」ではなく長期にわたり使用する施設、設備を整備し持続的に供給してゆくための費用と説明をさせていただきご理解をお願いいたしております。昨年の5月連休明けには他大学に先駆けて、オンライン通信環境整備のために全学生に対し一律5万円の支給をおこない、加えてコロナ禍に関わる経済的困窮に対しての緊急支援奨学金（給付）の拡充、拡大もおこなってまいりました。

新型コロナの収束は未だ見えませんが、中野敬一新学長のもと教職員一致団結し「STUDENT FIRST!」、心と力を尽くして乗り切ってゆかれることでしょう。

さて、学長就任も退職時も思いもかけない事態となりはしましたが、これも神様が与えてくださった、人知の及ばないところでのご配慮、人生の道しるべだと信じます。私はこの神戸女学院で学び、また教員として多くの学生に関わってきたことを心より誇りに思います。当初は重荷に感じていた学長職ですが、試練も含め、様々な出会い経験を通して、今は人生が豊かに膨らんだと感じております。関わり支えてくださったすべての皆様に改めて言い尽くせない感謝と御礼を申し上げます。創立150周年に向けて神戸女学院の歴史の一部に存在できたことはかけがえのない喜びです。一日も早く学内が学生たちの明るい笑い声と笑顔で満ち溢れますように。そして揺るがないミッションステイトメントのもと、神様の御心と共に、神戸女学院が充実の時を重ねてゆかれることをお祈りさせていただきます。

150周年記念ロゴマークが決定しました

創立145周年となる2020年10月12日、創立150周年に向けたメッセージ“Bridging Generations”を発信しました。あわせて学生生徒、卒業生および教職員を対象に記念ロゴマークの募集を開始し、コロナ禍で周知・広報にも制約があった中、12月11日の締切までに計25作品の募集がありました。

「メッセージの内容と整合性がとれていること」「未来に向けた躍動感が感じられること」「神戸女学院らしさが感じられること」の3点を選考基準として候補作品を選定し、デザイナーによる精緻化等を経て下記を150周年ロゴマークとして決定しました。



Bridging Generations

150 Years of Excellence in Women's Education

未来を生きる人たちのために。

あわせて、同ロゴマークの原案考案者を最優秀賞に、最終段階まで残った他3作品の原案考案者を優秀賞として選定しました。

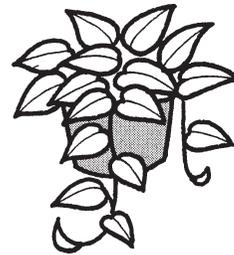
(応募者の内訳)

大学生：13 高等学部生：2 中学部生：5
卒業生：4 教職員：1 計25

ご応募いただきました皆様、ありがとうございます。

今後、様々な媒体等を通じ、2025年に向けて「神戸女学院150周年」をアピールしてまいります。

(150周年事務局)



KCCだより

[コーベ・カレッジ・コーポレーション (Kobe College Corporation) は、1920年に神戸女学院のキャンパス移転の資金援助のため設立された、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体 (NPO) です。以来、日米両国の学生生徒並びに教員のためにさまざまな文化交流の機会を創出するなど、有形無形の力強い支援をおこない、神戸女学院はその活動によって大きな恩恵を受けてきました。2004年、KCCはその活動範囲を拡大するために、名前の後に“Japan Education Exchange”という副称を付け加えて、通称 KCC-JEE となりました。今回は、世界中で新型コロナウイルス感染症が拡大する中、アメリカでの近況を、KCC-JEE 理事であり、学院評議員でもある水野多美さんがまとめてくださいました。]

全世界の人々がコロナ禍で苦しい環境で過ごしています。KCC-JEE メンバーから、2020年3月から続くアメリカでのコロナ禍の中、感じたこと、現況などをお伝えします。

杉浦 剛 イリノイ州 シカゴ在住

新型コロナウイルスの感染が始まってから丁度1年になります。その間、感染拡大が止まらず、当地では累計感染が2,500万人、死者が42万人(2021年1月24日現在)と日本とは桁違いの状況が続いています。生活環境は一変、これまで享受していた自由は著しく狭められ幾多の規則や作法が強制され辛抱や我慢が生活の一部となってきました。その中で一体何が“Essential”(最低限必要なもの)で何が“Non-Essential”(贅沢、不必要)かを見極める努力を始めて、気がついたことは従来、如何に不必要なものに時間とお金を使っていたかを認識させられました。教わった教訓を余生に生かした生活をしようと考えております。

Eric Fulcomer イリノイ州 ロックフォード在住

I have helped guide Rockford University through this challenging time—from moving on-line in the

spring to resuming in-person living and learning in the fall (with many modifications). I am grateful to our faculty, staff, and students for being flexible during this time and am proud of the way that we have persevered through the COVID period.

ロックフォード大学にて春のオンライン授業、たくさんの調整を加えた秋の対面授業の再開など、複雑な変化を乗り越えてきました。教職員、スタッフ、学生が柔軟に対応できたことに深く感謝しており、コロナ禍でも忍耐強く生活できていることを誇りに思います。

Cindi SturtzSreetharan アリゾナ州 フェニックス在住

I live in Phoenix, Arizona. My family and I have been staying at home since March 6, 2020; we only leave for the supermarket once a week. My husband and I work for a university so we can work from home. Our children do school from home, online. We are lucky we have a place to live, jobs, and food. Many people in AZ refuse masks. It is a very bad situation. I don't know when we can leave our house. Please be careful everyone.

2020年3月6日からほとんど家におり、食料品を買う時だけ出かけています。夫と私は大学で働いているので在宅勤務ができます。子どもも在宅でオンラインスクールをしています。私たちはラッキーです。職はあるし、住むところも食糧もある。アリゾナ州の人々は一部マスクを反対するので、とても大変です。いつ家から出られるかは全くわかりません。皆さん気をつけてください。

Roberta Wollons マサチューセッツ州 ボストン在住

I am still teaching at the University of Massachusetts remotely, using zoom for the first time. It's ok but it's not the same as being in a classroom with my students. Also, I am writing a book about American missionaries who built schools abroad, including KC and Shoei Tandai, started by Annie Howe. The other schools are in Ottoman Turkey and South India in the late 19th century. So I have been busy, but I miss being with friends and

seeing family in California, and traveling. I couldn't go to Japan last summer and hope I can later this year. That would be wonderful!

マサチューセッツ大学で Zoom を使って初めてのリモート授業をしています。学生を前にしたクラスでの授業とは違います。また KC や Annie Howe によって始められた頌栄短期大学を含む米国外での学校創立をしたアメリカン宣教師たちについての本を執筆しています。19世紀後半に創立されたトルコオットマンや南インドの学校についても書いています。このように大変忙しくしていますが、友人やカリフォルニアの家族に会えないこと、旅行ができないことが残念です。昨夏に日本へ行くことができなかったのが、今年の後半には行けたらと願っています。そうなったら最高です。

Ken Tornheim イリノイ州 シカゴ在住

The effects of Covid-19 on my day to day life have been substantial. After having to drive weekdays, and some Saturdays, from the Northern suburbs of Chicago to my office in Downtown Chicago for the past 25 years, I now work exclusively from home. I have not been in my Downtown Chicago office since March 10, 2020. I am grateful for the technology that exists today to allow for such a drastic change in how one can work from almost anywhere as long as they have internet and some key computer related equipment. I am also thankful that my family, friends, clients and colleagues have remained healthy throughout the pandemic. I do look forward to resuming a normal way of life once Covid-19 is behind us. I will no longer take for granted the ability to eat in restaurants, attend live venue events, travel, shaking hands, hugging a loved one and many other things that were not too long ago part of my previous normal day to day life. Good times await!

コロナ禍で私の日々の生活は大きく変わりました。過去25年間シカゴ郊外の自宅からダウンタウンまで時々土曜日も含む週日にドライブ通勤していたのが、在宅勤務となっています。2020年3月10日から

シカゴダウンタウンのオフィスに行っていません。インターネットとそれを繋ぐ器材があればどこに居ても仕事ができるという大変化を可能にした現在のテクノロジーを有難く思っています。また、家族、友人、クライアント、同僚たちがこのパンデミックの中、健康でいられることに感謝しています。コロナ禍が収まり、ノーマルな生活に戻ることを待ち望んでいます。レストランでの食事、催事への参加、旅行、握手、愛する人たちとのハグなど今まで普通の生活としてついこの間までできたいろいろなことが、もはやできなくなっていました。早くその普通の日が再来することを心待ちにしています。

Angie Gaspar コロラド州 デンバー郊外在住

Due to my husband's job, we uprooted our family and moved from Maryland to Colorado recently. My kids and I continue to navigate the challenges of online classes. Many of my students' families are struggling, with family members hospitalized or lost jobs due to COVID 19. I try to keep things fun for my children and students and count my blessings.

夫の仕事の為、私たち家族は、メリーランド州からコロラド州へ最近引っ越ししました。子どもたちと私は、オンライン授業でのチャレンジを続けています。私の生徒の多くは、家族が入院したり、コロナ禍の為に失業したりと、苦しんでいます。それでも子どもたちや学生にとって楽しいことを続け、今自分にあるものに感謝しています。

Abbi Mayland ミネソタ州 ミネアポリス在住

I recently had a baby, so I have spent this time limiting my exposure to others by avoiding large gatherings and working from home. Our small family is healthy and doing well, but I am sad that many of my friends and family members have not been able to meet the baby yet. I am hopeful that they will be able to meet him soon!

2020年12月に新たな家族を迎え、外部で人と会うことを避け、在宅勤務を続けています。私たちの小さな家族は、健康に恵まれ元気しております。しかし、多くの友人や家族に未だ小さな息子に会っても

らうことができず残念です。できるだけ早く彼に会ってもらえることを待ち望んでいます。

Liv Coleman フロリダ州 Bradenton 在住

Because the weather is warm, I teach outside in a tent at my university. I haven't eaten inside a restaurant in almost a year and I rarely leave my home. I miss seeing family and friends, but enjoy connecting online. My parents just received their first vaccine, so that gives me hope. Hope you are doing well!

フロリダでは天候も暖かく、大学では屋外テントで授業をしています。1年ほどレストランでの屋内飲食をしておらず、ほとんど家から出かけていません。家族、友人に会えないのが残念ですが、オンラインでのつながりを楽しんでいます。私の両親が、第1回目のワクチン接種を受けたことは、私に希望を与えてくれています。皆さまが健康でありますように。

Elizabeth Hartung-Cole メイン州在住

The pandemic has made me feel both fortunate and frustrated. I am grateful to God that my family is healthy and caring. I live in coastal Maine and am learning to quietly observe nature for inner calm. I am frustrated that I cannot do more to help people throughout the world who are suffering unbelievable hardships.

私はパンデミックのおかげで、幸運と挫折を感じています。私の家族が健康で守られていることを神に感謝しています。メイン州の海岸部に暮らし、心の静寂の為に自然を静かに観察して学んでいます。このような信じられない困難な苦しい世の中で人々を助けることができないことに失望してしまいます。

児玉 十代子 ワシントン DC 在住

多くの人が新型コロナウイルスに感染して亡くなったり、職を失ったりしています。身近にそういう人の話を聞いたたびに、心が痛みます。一方、私は2020年3月中旬から在宅勤務が続いています。10月末から年始までシカゴの家族のところを身を寄せてい

て、4人の子どもたちが走り回る中、仕事をしていました。学校が急に遠隔教育に切り替わったり、国内旅行すら憚られるなど様々な制約がありますが、家族が健康でいることに感謝しています。

大東 由季 カリフォルニア州 サンノゼ在住

今回のパンデミックでアメリカの人種差別、貧富格差という問題が浮き彫りになったように思います。その中で、神戸女学院の学院標語にある、「隣人」とは私たちにとって誰なのか、「愛する」とはどういうことなのかを家族で祈り、考えさせられています。

竹中 香苗 イリノイ州 シカゴ郊外在住

新型コロナウイルス感染症が広まり2020年3月に学校やオフィスがロックダウンされ、マスクが手に入りにくい時期がありました。娘たちを中心に家族で1,000枚以上のマスクを作り、地元の人々に配りました。町の人々はマスクを受け入れてくれ目立った暴動もなく安心でした。もう1年近く、大好きな旅行も日本にも行けず巣ごもりしていますが、家族全員元気で、職もあり、安定した生活を送れているのは幸いです。あとはインターネット社会にも大感謝です。今はダイビングと温泉とウナギを楽しみにじっと我慢の時です。少しでも早く世界に日常が戻ることを願っています。

水野 多美 ニュージャージー州 ホボーケン市在住

マンハッタン近くに暮らしており、近所の多くの方々は職場や仕事が縮小され、引っ越してしまいました。賑やかだった町は、廃墟となっています。このような悲しい状況ではありますが、元気に自宅に気ままに過ごせることは、有難いです。ほとんどウチにとじ籠り、次の仕事を始めることを夢見て、次への準備をしています。

<追悼>小玉 佐智子先生

院長 飯 謙



2021年1月24日、第10代学長の小玉佐智子先生が静かに天に召された。享年91歳。ご葬儀はコロナ禍のため所属される神戸教会の菅根信彦牧師(本学院理事)の司式により、ご家族のみで守られた。ご自身の学長就任式を、来賓の祝

辞などで飾らぬようにと強くおっしゃった光景と何か重なって映る。

小玉先生は旧制の神戸女学院専門部経済科から新制の神戸大学経済学部、同大学院、同助手を経て、1956年神戸女学院大学文学部社会学科助手として奉職。1972年教授。学院創立百周年を記念した総合文化学科の設立に参画。学生部長、学科長、学部長を歴任し、1989年4月、学長に就任された。在任最後の年度となる1993年には旧家政学部改組による人間科学部設立を果たした。先生が神戸女学院に旧制の時代から学ばれ、新制大学の黎明期に教員となり、現在の3学部3研究科体制の構築に尽力された歩みを思うと、まさに母校の成長に献身された方と評することがふさわしいと感じられる。

ご専門は経済学であるが、リベラルアーツ大学におけるこの分野の在り方にも心血を注がれた。あるときノーベル経済学賞受賞者P.T.サムエルソンの文献を引用して、学生にさまざまな経済事象を説明し、それらが形成する「絡み合った全体を一つの体系として総合化」できる人の育成を課題として示された。狭義の専門から全体への意識、さらに他者本位の生き方が必要とされる、と。

学長就任式の開会に小玉先生は愛唱讃美歌536番(現566番)「むくいをのぞまで、人に与えよ。そは主の貴き、みむねならずや」を選ばれた。ご一緒に先生の天上の平安をお祈りしつつ、先生が今日の神戸女学院に連なるわれわれに架橋しようと願う信仰のメッセージとして心にとめたく思う。

2021年度年間標語

人にしてもらいたいと思うことは何でも、
あなたがたも人にしなさい。

(マタイ 7:12)

学院チャプレン 中野 敬一

学院永久標語である「愛神愛隣」の「愛隣」の基になる聖句は「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイ 22:39)です。それを別の言葉で言い換えたものが、今年度の学院標語です。つまり隣人愛とは「人にしてもらいたいと思うことを人にすること」だと主イエスは説明されているのです。

類似的教訓は古今東西にも散見され、「黄金律」(Golden Rule)と称されています。ただし「人にしてほしくないことは人にするな」といった類例のほうが多いようです。例えば、孔子が論語で「己の欲せざるところは、人に施すことなかれ」と論じているのはよく知られています。古代ユダヤ人の宗教的文書(キリスト教の「旧約聖書続編」)にも「自分が嫌なことは、ほかの誰にもしてはならない。」(トビト記 4:15)とあり、他宗教の經典にも記されています。

「人にしてもらいたいことを人にせよ」と「人にしてほしくないことは人にするな」は、一見すると同じ内容にも思えますが、前者のほうが積極的に人と関わって援助しようとする姿勢が伝わってきます。後者は処世術として効果的かもしれませんが、人との関係を構築する力にはなりません。

「人にしてもらいたいこと」は主観的であるがゆえに、自分の行動がお節介になるのではないかと恐れることもあります。けれども相手と立場を入れ替えてみて自分がそれを望むと思うのならためらわず行動してみるべきだと思います。大切なのは実際に「すること」でしょう。そこに行為の大小は問われていないのです。主イエスの「何でもしなさい」という言葉が後押ししてくれています。たとえ小さな行為であったとしても、それを受ける相手にとっては大きな喜びや慰めになることがあるのです。勇気をもって聖句の実践に励みたいと存じます。

クリスマス報告

クリスマスを迎える心の準備をするアドベントのはじまりとして、2020年11月30日(月)夕刻に点灯式を挙行しました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う混乱が現在進行形で続く中だからこそ、講堂横のツリーに明かりが灯った時、心温まるひと時となりました。

〈 大 学 〉

大学の後期は、一部の対面授業や課外活動が許可されるも、原則としてオンライン授業が継続されている状況でした。例年はクリスマス前の1週間に各学科がチャペルアワーを担当するのですが、今年度は中止となりました。

クリスマス礼拝当日である12月18日(金)は授業の時間割を変更し、正午から大学クリスマス礼拝をまもりました。感染拡大防止の対策を最優先とした形での礼拝のため、音楽学部による演奏・合唱のご奉仕は出演者数・規模を大幅に制限し、会衆席も広く使用しました。Moodleにて学生・教職員を対象にライブ配信をおこないました。

今年度は日本キリスト教団甲東教会牧師 西澤他喜衛氏により「神に栄光 地には平和 一降誕はどこへ そして誰に向って」と題してメッセージをいただきました。

2000年前のクリスマスの出来事は、今日のクリスマスからイメージされるような、華やかで煌びやかなものではなく、暗さや悲しみに寄り添うものでした。2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響で



大学クリスマス礼拝の様子

多くの人が苦悩し、悲しみの中で生きることを余儀なくされた1年でした。

クリスマスの物語が暗闇の中で輝く希望として語られているように、今も悲しみの満ちたこの世界に神の手が差し伸べられ、平和が訪れることを祈りたい、と先生は語られました。

〈 神戸女学院 クリスマス礼拝 〉

新型コロナウイルスの感染拡大の状況に鑑み、学院クリスマス礼拝は、一般公開を中止とし教職員のみでまもりました。今年度は飯謙院長より「主は豊かであったのに」と題してメッセージをいただきました。

クリスマスを語る時のキーワードに、「貧しさ」があります。救い主イエスが飼い葉桶でお生まれになり、自らを十字架へ差し出した生涯の代名詞とも言える重要な単語だと先生は仰いました。そして貧しさの中でこそ私たちが互いに痛みを分かち合い、共感し、自発的な愛を導き出すことができると語られました。

150年の歩みの中で、神戸女学院は幾度となく行き詰まり、困難に直面してまいりました。しかし、そのたびに祈り、隣人の為、学生・生徒の為に自らを差し出された方々と共に歩んできたことが思い起こされます。

私たちは今も厳しい状況の中に置かれていますが、神戸女学院としてクリスマス礼拝を捧げることができました。私たちはささやかながらも、クリスマスにふさわしい豊かさの中に身を置くことが許されたのではないのでしょうか。

学院全体が大切にまもっているこのクリスマス礼拝は、神戸女学院がキリスト教主義学校であることを強く伝えられる大きな機会であり、共にひとつの祈りの時を持つことができる大切な場です。次年度は主の恵みに与かるひと時を、皆で一緒に過ごすことができるよう祈るものです。

司式：中野 敬一 奨励：飯 謙
 独唱：斉藤 言子、松本 薫平、音楽研究科生
 独奏：ザビエル・ラック 重唱：音楽研究科生
 奏楽：片桐 聖子

〈プレゼント報告〉

今年も、大阪水上隣保館と神戸真生塾、福島にある社会福祉法人 牧人会白河めぐみ学園と白河こひつじ学園へプレゼントを郵送にてお届けすることができました。ご協力いただいたすべての方々に感謝と共にご報告申し上げます。

皆様、ありがとうございました。
(チャプレン室)

〈中高部クリスマス礼拝報告〉

2020年12月18日(金)にクリスマス礼拝をささげました。

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、放送礼拝という形での礼拝となったために、JSコーラス部やS2、S3の音楽選択者による音楽奉仕もありませんでした。

例年ですと、ポインセチアやリースが飾り付けられた美しい講堂で、キャンドルに灯された火を見つめながら、クリスマスの喜びを共に確かめ合うところですが、今年はそれぞれの教室での礼拝となりました。

中高部では、この1年、行事の中止や縮小を余儀なくされてきました。思い通りにならない学校生活の中で、礼拝も各教室での放送礼拝が中心となりました。そのような困難な状況にあっても学校生活に意義や喜びを見出そうとする毎日であったと感じています。

この度の礼拝も、生徒たちが期待していたような形のものではなかったかと思いますが、そうであるからこそ、闇の中に灯された光としてキリストの生涯を捉え直し、希望を新たにできる機会にできたと確信しています。

この礼拝には、甲東教会の新堀真之牧師をお迎えし、「希望は、弱さの中に」というテーマでクリスマスのメッセージを語っていただきました。

嘆きや諦めの言葉を発してしまいそうな現実の中に、希望の光が灯されていること、その灯を見出した者は、闇ではなく光の内に生きることができるのだと教えられました。

学校では楽しそうに、平静を装っていても、皆が例外なく、不安や恐れを抱えてきました。そのことを認めるためには大変な勇気が求められますが、闇の中に光が灯され、弱さの中にこそ神の力が働くという聖書の約束を根拠として、困難な状況の中にあっても、愛や希望の光を見出してきたのだということを確認し合い、語り合う者でありたいと思います。

コロナ禍での、例年通りにはならなかったクリスマス礼拝ではありましたが、「闇の中を歩む民は大なる光を見た」という預言の言葉を、私たち自身の生活に重ねて考えるよい機会になったと感じています。

思い通りにならない生活の中でこそ、神様の声に耳を傾け、自分たちの思いを超えた、神様の御心に信頼して歩む者でありたいと思われました。

なお、クリスマス礼拝のプログラムデザインは、J2の生徒の作品が、全校生徒の投票によって選ばれました。作品は、葆光館1階の廊下に展示しています。

(中高部チャプレン)

史料室の窓(53)

キャンパス探訪 (6)

「岡田山ロッジ」に歴史あり

神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵

皆さん、岡田山ロッジをご存知ですか。名前を聞いたことはあるけど、どこにあるか知らないわという方、結構いらっしゃるのでは。岡田山ロッジというのはキャンパス内にあるクラブの部室や合宿所のある建物の名前です。メアリー・アンド・グレイス・ストウ学生寮の隣にあるので、寮生の皆さんは日常的に目にしているでしょうし、クラブで中に入ったり、実際に合宿した方もいるのではないのでしょうか。

もう随分昔の話になりますが、私も学生時代、ゼミで岡田山ロッジを使ったことがあります。けれども私の使った「岡田山ロッジ」は今の岡田山ロッジではありません。同窓生の中には、そうそう別の建物だったわねと、懐かしく思い出される方もおられるでしょう。現在の岡田山ロッジと呼ばれている建物はかつて南寮と呼ばれる学生寮でした。ではどうして建物の名前が変わってしまったのでしょうか。実は「岡田山ロッジ」という名前と建物にはそれぞれに歴史があるのです。時を遡って「岡田山ロッジ」探訪の旅に皆さんをお連れしたいと思います。

まず最初に「岡田山ロッジ」という名前からみていきましょう。最初に「岡田山ロッジ」と呼ばれた建物は、現在茶室のある場所の西側の林の中にひっそりと建っていました。木造二階建ての和風建築で、学生のための合宿所として使われていました。パッと見てキャンパスの他の建物とは全く似ていない地味な建物でしたが、1995年の阪神淡路大震災で被災し、倒壊の危険があるため取り壊されました。そして被害を免れ、学生寮として使われなくなった南寮が学生のための施設として再利用される際、「岡田山ロッジ」の名前を継承したのです。ちなみに学生寮は南寮の他に北寮、新寮、東寮（中高部用）がありましたが、北寮と東寮は取り壊され、現在新寮は「大学クローバー館」と名前を変え、学生のための施設に生まれ変わっています。また寮の食堂であった建物は現在ミリアム館になっています。

では次に初代「岡田山ロッジ」であった建物の長い歴史を見ていくことにしましょう。初代の建物は地味で他とは違って見えたといいましたが、実はこの建物もヴォーリズ設計による校舎でした。しかも岡田山キャンパスの校舎よりも古く、旧山本通キャン



家齋館



初代「岡田山ロッジ」

パスで使われていた建物を移築したものでした。

この校舎は3度名前を変えました。家齋館、同窓会館、岡田山ロッジと。そして名称変更と共に用途も変化していきました。元々の名前、家齋館から想像がつくかと思いますが、この校舎は1914年、家政学関係の授業（裁縫や作法等）のために建てられました。神戸女学院はリベラルアーツ教育を理念としていますが、家政学系の科目はれっきとした理化学系と位置付けられていましたので、1891年に現在の神戸女学院大学の元になっている高等科ができた時から存在しています。今の校舎で言えば家齋館は理学館別館といったところでしょうか。そんな由緒ある建物は、岡田山キャンパス移転より前にヴォーリズによって設計された神戸女学院ヴォーリズ校舎第一号だったのです。現存していればこれも重要文化財になっていたかも。同窓会が新キャンパス内に会館建築を計画していた時、理事会で家齋館を同窓会という話が持ち上がり、新キャンパスに移築して同窓会館として使われることになりました。移築の際に少し手が加えられて元の校舎とは違ったようですが、1980年に新しい同窓会館（現・めぐみ会館）ができるまで同窓生たちが旧交を温め、学院のために篤い祈りと議論を交わした場所でした。そして同窓会館としての役目を終えた後も、古いからといって取り壊されることなく、更に移築され、学生施設として使われ続けました。

私の知っているあの「岡田山ロッジ」はもうありません。しかし「岡田山ロッジ」はこれからもその名と共に神戸女学院のキャンパスと歴史の中に存在し続けるのです。

大学報告

コロナ禍で学びを継続させるための取り組み

【学生生活支援センター】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、経済的な支援を必要とする学生（学部生・院生）に対し、学びを継続できるように以下の支援を実施しました。

（１）神戸女学院大学緊急支援給付金

遠隔授業受講に備え、ネット環境確保や学修の場を整えるなどの費用として、6月に給付金5万円を2,524名に支給しました（総額1億2,620万円）。

（２）神戸女学院大学緊急支援奨学金

家庭の収入が減少したことにより、生活が困窮し日々の生活に困っている学生に対し、奨学金30万円を第1次募集では7月に45名、第2次募集では12月に38名に給付しました（総額2,490万円）。

（３）神戸女学院大学下宿生対象学びの支援

遠隔授業に伴う下宿生・寮生の学資の負担を少しでも軽減するために、神戸女学院大学教職員組合からの寄付（300万円）により、12月にQUOカード7,000円分を406名に支給しました（総額284.2万円）。

（４）神戸女学院めぐみ会緊急支援奨学金

公益社団法人神戸女学院めぐみ会様から、家庭の収入が減少したことにより生活が困窮し日々の生活に困っている学生に対する奨学金として、第1次募集では7月に36万円を25名に、第2次募集では12月に30万円を5名に給付していただきました（総額1,050万円）。

その他、家計急変のあった10名が、国の「高等教育の修学支援新制度」の対象者として認定され、給付奨学金の受給とともに、授業料減免が実施されています。また、JASSO学生支援緊急給付金として195名に10万円又は20万円が支給されました。

多くの方々からあたたかいお力添えをいただき、学生が学びを継続するための経済的支援を実施することができました。厚く御礼申し上げます。

（学生生活支援センター課長）

【遠隔の学びをサポートして】

2020年度、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、大学では遠隔授業が導入されました。大学では遠隔授業サポート体制を整えるべく、まず各部署のITに強いメンバーがチームとなり、準備期間を経て、2020年5月12日(火)に遠隔授業サポート室が開室いたしました。大学へ登校し、学生の前で実施してきた授業を、いきなり異なる形式で提供することになった先生方の負担。大学へ行けば受けられた授業を、環境を整えなくては受けられない、友人とも会えない、自分はちゃんと学べているのだろうかという学生たちの不安。様々な声がサポート室に寄せられました。サポートの内容としては、学習プラットフォーム Moodle、ミーティングツール Zoom、動画配信サーバー Mediasite が中心でしたが、直接のサポート内容に対応するだけでなく、環境改善のお手伝いや、学生と教員の橋渡しを請け負うこともありました。

様々な個々の環境で、先生方や学生の皆さんが、少しでも快適に授業を提供、履修するために、利用者の立場に立って寄り添うサポートをしていきたいというのが、メンバーの共通の思いでした。良いメンバーに恵まれ、神戸女学院の規模だからこそそのサポートが提供できたと思っています。例年以上に大変な一年を過ごしましたが、新たに得たノウハウも沢山ありました。その一つ一つを有効利用し、工夫によって、今後も良い学びのお手伝いをしていきたいと思っています。

(遠隔授業サポート室職員)



サポート室のホワイトボードより

【コロナ禍における図書館サービス】

大学の方針の下、館員で知恵を絞り学生支援として図書館にておこなった取り組みは以下の通りである。

A. 学生入構禁止期間：オンラインサービス充実化

- ① 図書館 HP 内に「おうちでべんりに」コーナーを開設（各種図書館サービス利用案内を集約）
- ② Moodle による新入生向け図書館ガイダンス
- ③ 貸出期限の段階的延長
- ④ 郵送サービス（蔵書貸出／学内外資料複写物）
- ⑤ 検索環境の改善（契約データベースの同時アクセス数増設／トライアルによるデータベース追加／データベース提供元による WEB 講習会の実施／電子書籍の本格的始動／紀要所蔵リストの図書館 HP 掲載）
- ⑥ 音楽学部図書室所蔵図書の貸出冊数臨時増冊対応（対象：音楽研究科修士課程生）

B. 学生入構可能後：来館対応と環境の整備

- ⑦ 感染拡大防止のための同時入館者数制限、事前予約制による来館受付（オンライン予約）
- ⑧ 衛生管理の徹底（図書消毒機の導入、使用箇所の消毒、換気等）
- ⑨ 登校困難な学生のための郵送サービスの継続
- ⑩ 3年生向けガイダンス（対象：文・人）を従来の対面方式から希望者予約制・オンラインに変更し定期的に開催（Zoom 使用）

学生の反応（資料返却時の同封の手紙やガイダンスアンケート）には私たちが励まされた。図書館が学生で溢れる日が早く戻りますように。

(図書館職員)



手に取った図書が全て消毒済になるよう工夫

文学部講演会「未来への原点」を開催

文学部 英文学科 4年生
文学部 総合文化学科 4年生

2020年12月12日(土)に関西学院大学教授で長年日本テレビ系『NEWS ZERO』のキャスターを務められた村尾信尚先生と本学名誉教授の内田樹先生をお招きし、学生主催の文学部講演会「未来への原点」をオンライン（Zoom）で開催しました。

講演前半は村尾先生に「私の歩んだ道」と題し、単独で講演いただきました。村尾先生が歩まれた人生は財務官僚、キャスター、大学教授と変化があり「諸行無常であった」と述べられ、そのうえで「変わらないリスクは変わるリスクよりも大きい。変わっていくことを恐れずに歩んでいってほしい」とのメッセージをいただきました。

講演後半では「コロナ禍後の日本と世界」というテーマで村尾先生、内田先生に対談いただきました。「コロナウイルスの影響で採用減となった企業があるが、今後先生方は採用基準についてどう変わると思われるか」という議題では、表面を取り繕うことなく素で面接に臨むことや、外国語の知識を蓄えておくことの重要性を教えてくださいました。また、「最近の企業は従順な学生を採用しており、そのような企業はイノベーションが起きないのでは」という意見も出され、先生方らしい視点でのお話に引き込まれていきました。

また、先生方への質疑応答では読書やメディアに関することなど多くの質問が寄せられ、学生の関心の高さがうかがえました。

先生方のお話は学ぶことが多く、有意義な時間となりました。今回のお話を心にとめ、社会へと踏み出す原点とさせていただけたいと思います。

今年度の文学部講演会はコロナ禍の影響で初めてのオンライン開催となり、戸惑いを感じることもありました。しかし、幸運にも多くの方のご協力を賜ることができ、アンケートでは高い評価をいただくことができました。村尾先生、内田先生をはじめ、ご支援・ご尽力いただいた皆様にこの場を借りて心より感謝申し上げます。コロナ禍が収束し、講演者に來校いただける日が戻ることを願っております。



笑顔のご講演者と主催学生（Zoom）

「ミュージック・コミュニケーション講座」に大友直人氏（指揮者）が講師として来訪

2020年12月4日(金)3限の「ミュージック・コミュニケーション講座」に指揮者の大友直人氏が講師として来訪しました。この講座は本学音楽学部と東京音楽大学との共通講座（2009年開始）で、12年目の今年は「分断の時代を音楽で乗り越えるには」を全体テーマに、本学の島崎徹教授をはじめ、多彩な講師陣が登場しました。インターネット・ビデオ会議システムで両校を繋いで、双方から代わる代わる配信して共に学ぶという形で継続しています。今回は本学からの発信で、大友氏は本学オルチン館の合奏室に集まった受講生と聴講生には対面で、一方、東京音楽大学の受講生には画面を通じて語り掛けました。時に双方の大学の学生たちに質問を投げ掛けながら、「クラシック音楽と社会との関係を考える」をテーマに、音楽界の現状と課題について語りました。大友氏は五感をフルに使って「ダイレクトな空気感や関わり」を大切に、音楽を介して人とコミュニケーションを取ることの重要性を説きました。第一線で活躍する音楽家ならではの経験に裏打ちされた洞察に、学生たちも感銘を受けた様子でした。

大友氏は2004年2月の本学大学院音楽研究科の修了演奏試験に外部審査員としてお出でくださったので、今回が2度目の来校です。授業前には、斉藤言子学長、佐々由佳里学科長、古田昌子准教授、松浦修准教授と授業担当者の津上とで、大友氏を囲んで交流の一時をもったことを付記します。

（音楽学科教授 津上 智実）



大友直人氏の講義風景（於：オルチン館合奏室）

第11回絵本翻訳コンクール

2020年3月に準備を済ませ、4月に輸入……となるはずだった。課題絵本の発注先はニューヨーク。本拠地が一大感染地と化し、出版社は機能を停止していた。ニュージーランドの出版社を相手に、代替作品を輸入する手筈を整えた……はずだった。在庫が保管されている物流倉庫は中国にあった。運が悪かった。

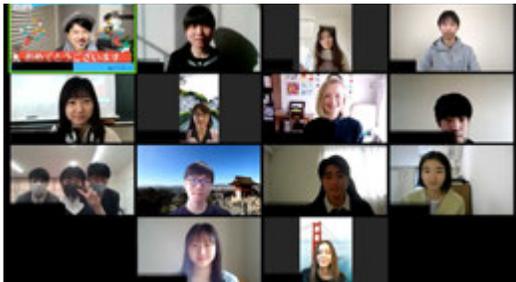
本邦に緊急事態宣言が発出され、高校は一斉に臨時休業。夏休みは短縮の見込みとなった。絵本が輸入できたとて、高校生に届ける術がない。届けられたとて、応募者が翻訳に取り組むはずの夏休みがない。手詰まりだった……が、諦めたくはなかった。

名残惜しくなかったわけではない。でも、インクの匂いは捨てた。ページをめくる音も捨てた。後は一本道だった。電子版の使用許諾を得て、募集は秋冬に延期した。各自の端末で絵本を読んでもらう。訳文をクラウドにアップロードしてもらおう。そうして開催に漕ぎ着けた。

課題絵本の『My Mama』は、オランダ図書共同宣伝機構から金の画筆賞を3度も授与されたアンネマリー・ファン・ハーリンゲン作(ビル・ナゲルケルケ訳)。ママとブランコ。自分のほうが高くこげる。それが誰のお陰かわかっていない子象は、「ぼくには かないっこないもんね」とママの背中を押してあげる。愛くるしい子象の全能感あふれるひとり語りが微笑ましい作品だ。

152校から930点の応募があった。本学英文学科卒で出版翻訳者の増田沙奈氏を迎え、最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作3点、審査員特別賞2点を選んだ。受賞者の集いを Zoom で開催したのは2021年2月13日(土)のこと。熱い翻訳談義に、百花の魁もほころんだ。

(英文学科准教授 中村 昌弘)



2月13日開催の「受賞者の集い」

「神戸女学院の100冊」書評コンテスト

神戸女学院大学の学びの基礎となる書として設定された「神戸女学院の100冊」をより広く本学学生に普及するため、毎年書評コンテストをおこなっている。以前は、高校生からの募集もおこなっていたが、2019年度からは、本来の「100冊」の目的に立ち返ろう、ということで大学生のみの応募となった。

2020年度は、全学より4名の応募があり、それぞれ大変熱のこもった書評を書いていただいた。慎重な審査の上、2名の学生が佳作に選出された。どちらの書評も、高校時代に学んだ事柄、あるいは生活の中において何気なくやりすごしている事柄について、今回「100冊」の中の1冊に触れることで新たな発見があり、新たな学びの喜びがあったことを瑞々しく伝えてくれていた。残念ながら2021年1月8日(金)の授賞式には1名のみの出席であったが、温かい雰囲気の中、受賞を祝福した。

今後も、「100冊」を通し、読書体験のすばらしさ、またその学びへの繋がりを伝えるべく、書評コンテストを継続していきたい。特に、現在のコロナ禍の中、なかなか広く人とふれあうことが、難しい状況でもあり、学生の皆さんには、書を通して世界とふれあう経験をおこなっていただきたいと願っている。

(副学長・教務部長 立石 浩一)

2020年度音楽学部定期演奏会

第3波と言われる新型コロナウイルス感染拡大が激しさを増していた2020年11月25日(水)、音楽学部定期演奏会「メサイア」公演が開催されました。開催を巡って大学、学院で議論を重ねた末、兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホールの座席を約半数に制限し、最大限の感染防止対策を講じた中で開催でした。学生たちは4年間の学びの中で「メサイア」と「第九」の舞台を経験して卒業していきますが、コロナ禍の中だからこそ中止ではなく、その舞台の感動を経験して欲しいと言う強い願いのもと、多くの方々のご協力を得て実現することができました。本番が近づくにつれて、学生や教職員に体調不良者が出ないか、緊迫感の中で当日を迎えましたが、ご来場くださった方々と共に祈りの時間を共有し、救いと希望の与えられるかけがえのないひと時となりました。

音楽学部でも前期の授業が全面オンラインとなり、6月中旬からは最終学年から少しずつ対面レッスンが再開しましたが、合唱やオーケストラの授業は前期中対面でおこなうことができませんでした。メサイア公演の準備もようやく9月から、大教室で間隔を広く取り短期集中でおこないました。合唱の授業再開に際し、本学卒業生有志の皆様がオーダーメイドの合唱用マスクをご寄贈くださり、飛沫を防止しながら呼吸の苦しくないそのマスクを着用して、声を合わせての練習が可能となりました。音楽学部を支えてくださる温かいお気持ちは何より嬉しく、力づけられました。また、今回は合唱の編成を急遽女性三部合唱に切り替えて演奏いたしました。本来は混声四部合唱ですので、男性合唱団の賛助が必要となりますが、少しでも感染拡大の危険を減らすため、富岡正男氏編曲の女声三部合唱版を使用することになりました。

11月下旬としては異例なほど暖かい当日、懐かしい教職員の方々、学生のご家族の皆様をはじめ435名のお客様をお迎えすることができました。ご来場いただいた皆様からはたくさんの励ましのお言葉をいただき、演奏会が開催できたことへの感謝の気持ちが一つに集まったコンサートとなりました。女声三部合唱のメサイアは、力強い男声合唱の厚みはないものの、ピュアで調和した美しい響きにあふれ、世界中が苦難に見舞われたコロナの年の記憶としてこれからも心に残ることでしょう。ソリストは今年度で学長・音楽学部教授を退任される斉藤言子先生(ソプラノ)、今年度より新しく着任された古田昌子先生(メゾソプラノ)、松本薫平先生(テノール)、萩原寛明先生(バス)のメンバーで見事な歌唱をご披露くださいました。困難な状況の中で合唱指導をご担当くださった山口英樹先生、オーケストラ指導と指揮をご担当くださった松浦修先生、オーケストラメンバー、スタッフの皆様、応援して下さったすべての方々から心からの感謝をお伝え申し上げます。そして、新型コロナウイルス感染拡大が一日も早く収束の方向へ向かい、穏やかな日常とキャンパスでの学びが戻りますことを祈っております。

(音楽学科長 佐々 由佳里)



2020年度音楽学部定期演奏会

第12回舞踊専攻卒業公演

2021年1月15日(金)に、兵庫県立芸術文化センター中ホールにて、第12回音楽学部音楽学科舞踊専攻卒業公演がおこなわれました。この度の公演は、専任教授の島崎振付による3作品を、骨折による1名の欠席があったものの、残りの10名が披露しました。1作品目のZero Bodyは体力的に多くを要求される作品で、これまでも幾度となく他の卒業生によって踊られてきた作品ですが、今回の10名によるまた新たなZero Bodyをご覧いただけたと思います。2作品目のAbsence of storyは、Johannes Brahmsの音楽に振付されたクラシックバレエテクニックとコンテンポラリーダンステクニックを使った作品で、本来であればコロナ禍の影響で中止になってしまった昨年の定期公演で彼女たちが3年生として発表する筈であった演目ですが、この度の公演でご披露することができたことを嬉しく思います。そして3作品目は、新作のBlood and Steelという作品で、人類が進歩と位置付け進んでいる機械化やデジタル化によってもたらされる便利さの裏側で失われつつある人間性について問いかけた作品です。作品を通して観に来てくださった方々に、人類が置かれた現状のようなものを、10名の学生たちの舞踊で感じていただくことができたとしたら、芸術というものが持つ一つの役目を果たせたのではないかと考えます。この場をお借りして公演にご尽力いただきました全ての方々に感謝申し上げます。

(音楽学科教授 島崎 徹)



島崎徹振付作品(新作)“Blood and Steel”より

大学クローバー賞表彰式

例年、大学祭のオープニングで大学クローバー賞の表彰式を執りおこなっていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため大学祭が中止となり、2021年1月19日(火)のチャペルアワーで表彰式を執りおこないました。

大学クローバー賞とは神戸女学院大学に在籍する学生の課外活動を奨励することを目的とし、顕著な活動や成績を取めた団体または個人にその栄誉を称えて贈られる賞です。選考は2020年9月30日(水)開催の連絡協議会において、「課外活動報告書」に基づき、連絡協議会委員9名と大学学生自治会委員5名の投票によりおこなわれました。

今年度の受賞はダンス部、チアリーディング部、学生YMCA、聖歌隊ハンドベルクワイア、ラクロス部、スカッシュラケット部の6団体でした。中でもラクロス部は15年連続18回目、スカッシュラケット部は3年連続18回目の受賞となり、日々の熱心な活動が受賞へとつながる結果となりました。

表彰式では永井めぐみ会会長同席のもとおこなわれ、中野学生部長から受賞団体の発表の後、斉藤学長より各団体へ表彰状と賞金が授与されました。団体代表の学生たちからのあいさつでは、受賞の喜びが感謝と共に述べられました。

今回受賞した団体も、今年度は惜しくも受賞を逃した団体も、今後の更なる活躍を期待したいと思います。

(学生生活支援センター課長)



受賞された団体のみなさんと

2020年度めぐみ会賞

めぐみ会賞は、神戸女学院の立学の精神を重んじた課外活動をおこなう大学及び中高部の団体に対し、その自主的な活動を称え支援することを目的として設けられています。

大学につきましては、対象期間(2019年10月～2020年9月)の活動報告書をもとに選考させていただきました。今年度は、コロナ禍により授業がオンライン化され、各団体とも例年のような活動が制限されてしまいました。その中で様々なボランティア活動を通じて地域や社会貢献に取り組まれた「学生YMCA」と、厳しい練習環境にあっても皆が切磋琢磨し努力を重ねながら上り坂の成績を取められた「スカッシュラケット部」の2団体の受賞となりました。2021年1月19日(火)のチャペルアワーでは、めぐみ会会長永井敬子より表彰状と賞金の授与がおこなわれました。

中高部の昨年度の受賞団体は「修養会 釜ヶ崎訪問」と、「S役員会」でした。今年度は、この状況下でも検討を重ねながら他団体にも呼びかけ心温まる活動をされた「秋の子ども会」と、例年の様々な活動の中から今できる活動を地道に続けられた「零の会」の受賞となり、1月25日(月)の中高部放送礼拝での永井会長の奨励後に表彰状と記念品が授与されました。

めぐみ会賞は、小さなグループも対象となります。めぐみ会では、各団体が、直面する様々な状況の中にあっても前向きに活動を続け、部員の皆さんが充実した学生生活を過ごされることを常に願っております。

(公益社団法人神戸女学院めぐみ会

副会長 大黒 泰子)

2021年度大学入試結果中間報告（2/25現在）

2021年度入試は文部科学省の入試改革に伴い、大学入試センター試験から大学入学共通テストに変更されたことをはじめとして、入試制度に関する様々な変更が生じました。それを受けて本学の入試についても一部、入試名称を変更しました。

2021年2月25日現在において、総合型選抜および学校推薦型選抜（指定校制）、学校推薦型選抜（公募制）、クローバー推薦、帰国子女、外国人留学生、国際バカロレアの各入試を昨年の内に、また、年が明けてからは一般選抜前期A・B・C・D日程および大学入学共通テストを利用する入試（共通テスト利用入試）前期日程が済み、残すは一般選抜後期日程および共通テスト利用入試後期日程のみとなっています。

現時点での概況ですが、主だった入試制度の志願者の状況は以下のとおりです（全て延べ数）。

入試制度	総合型	学校推薦型 (公募制)	一般 前期				共通テスト利用
			A日程	B日程	C日程	D日程	前期
2021年度	33	454	685	318	181	110	302
2020年度	55	681	1034	530	366	316	402

昨年度と比較すると残念ながら全ての入試において、大きく志願者数を減らすことになりました。

新型コロナウイルス感染症拡大により、受験生の大学選択の方法や入試動向が例年とは大きく異なったことは否めませんが、この結果を真摯に受け止め、まずは要因を見極めること、そのうえで社会環境の変化に左右されない基盤を築くことが重要であると考えています。

大学はもちろん神戸女学院に連なる皆様のお知恵とお力をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

（入学センター課長）

研究所活動報告

◇講演会

2020年10月16日

「ART -Necessity or Luxury? -
芸術と共に生きる」

宝塚歌劇団演出家 植田 景子 氏

◇助成・補助

◆出版助成 3件

1. 『Poema Autunnale』
2020年6月30日発売

音楽学科 辻井 淳 准教授

2. 『田中修二ピアノ協奏曲の夕べ』
2020年8月1日発売

音楽学科 田中 修二 教授

3. 『“The Sonata”
—An exploration in form and style』
2021年2月28日発売

音楽学科 Xavier LUCK 准教授

◆研究助成 9件

1. An investigation of criteria for successful settlement of immigrants, based on research of case studies and policy practices in Japan and overseas

英文学科 奥村 キャサリン 准教授

2. Antipodal Burrowing:
Revisions of Canon Explored in Literatures of the Global South

英文学科 Corey WAKELING 准教授

3. 小学校・中学校社会科における地域学習の改善に関する研究

総合文化学科 古岡 俊之 特任教授

4. データに基づいた中国語教育文法の作成

総合文化学科 建石 始 教授

5. 美術史における複製・模倣・ヴァリエーション

総合文化学科 伊藤 拓真 准教授

6. 三重県熊野市における原発反対運動

総合文化学科 景山 佳代子 准教授

7. ヘンデルのオラトリオ《メサイア》の演奏史 (その2)

音楽学科 津上 智実 教授

8. 温熱負荷が脂肪細胞のエネルギー代謝、中性脂肪蓄積におよぼす影響

環境・バイオサイエンス学科

西田 昌司 特任教授

9. 試験困難物質二塩化酸化ジルコニウムの生態影響評価

環境・バイオサイエンス学科 横田 弘文 教授

◆総合研究助成 1件

1. 宣教師文書の解読と解明

～1930年代半ばのデフォレスト文書を中心に～

音楽学科 津上 智実 教授

総合文化学科 中野 敬一 教授

英文学科 白井 由美子 教授

◆地域貢献・活性化のための補助 1件

1. An investigation of the situation of the new immigrants (技能実習生、特定技能者) in Japan

英文学科 奥村 キャサリン 准教授

◆専門部会研究発表会補助 3件

1. 英文学科

2020年6月22日

オンライン実施 (Zoom)

“Revisiting Intercultural Education:

On working with foreign residents in

sustainable and mutually beneficial initiatives”

奥村 キャサリン 准教授

2. 英文学科

2020年11月2日

オンライン実施 (Zoom)

“Theatre as a Space of Experiment:

Introducing Beckett’s Laboratory”

Corey WAKELING 准教授

3. 心理・行動科学科

2020年12月21日

オンライン実施 (Zoom)

「日本でのプレイセラピー実践に関する現状と

課題—プレイセラピストを対象とした実証的

研究から—」

須藤 春佳 准教授

◇発行物

『論集』第67巻第1号 (通巻第184号) 2020年6月発行

『論集』第67巻第2号 (通巻第185号) 2020年12月発行

(研究所)

女性学インスティテュート活動報告

◇研究会（奈良女子大学との共催）

2021年3月3日

「沖縄の出生力と人口転換」

奈良女子大学 澤田 佳世 准教授

「研究職のジェンダー平等化に必要なこと

～大学教員の意識調査から～」

心理・行動科学科 矢野 円郁 准教授

◇学生懸賞論文（第22回女性学インスティテュート賞）

- ・応募総数 1編
- ・最優秀賞 該当なし
- ・優秀賞 1編

〈優秀賞〉

- ・2020年3月人間科学部心理・行動科学科卒業生
「ジェンダーステレオタイプに疑問を持つ人を育てるには一大学生のジェンダー意識の現状をふまえて」

◇授業

- Cu130ab 「女性学（Ⅰ）」a、b
- Cu131ab 「女性学（Ⅱ）」a、b
- Cu132(1)(2) 「女性学（理論編）」
- Cu134(1)(2) 「女性学（実践編）」
- Cu235(1) 「ジェンダー・スタディーズ（Ⅰ）」
- Cu236ab 「ジェンダー学」a、b
- Cu335(2) 「ジェンダー・スタディーズ（Ⅱ）」
- ID100(1) 「プロジェクト：神戸女学院を創る」

◇ID100(1)「プロジェクト：神戸女学院を創る」

2020年度、「プロジェクト：神戸女学院を創る」という講義を担当しました。この授業では、私が取り組んできた研究テーマ「老いと踊り」という分野で「老いとジェンダー」に焦点を当て、講義を進めました。80歳で生まれて若返っていく男の映画「ベンジャミン・バトン 数奇な人生」から話をはじめ、加齢に対する様々な文化的イメージを紹介しながら、それが理想の身体を体現する舞踊において、どのように表現として昇華されるかを、伝えていきました。「老いないダンサー」と「老いる舞踊家」とい

うキーワードと共に、バレエやモダンダンスといった欧米の舞踊と、日本舞踊や能楽、暗黒舞踏など、日本の舞踊での「老いて良くなる」とされる本質の違いも、ここで明らかになっていきました。

最終授業では、70歳を迎えたコンテンポラリーダンスの舞踊家山田せつ子さんを招聘し、大学での即興パフォーマンスを企画していました。感染症対策で全てがオンライン開催となってしまいましたが、山田さんの師である舞踏家笠井毅さんや韓国舞踊からの影響、また、即興に隠された〈老い〉や時間の知覚について、ご本人を囲んで白熱した議論をおこなうことができました。

当初、多くの〈若い〉受講生にとって、〈老い〉を自分自身の問題として捉えるのは難しいようでした。ただ、「歳を重ねて自分が強く信じたものだけを残し、老いてできなくなったことを認める勇気が必要」「老いてダンスに対する考え方が変わるのでなく、人生に対する見方が変わりダンスが変化する」という山田さんの言葉に大きな刺激を受け、最後は受講生それぞれの〈老い〉への思考を自由に拡張してくれたと感じています。老いの問題はコロナ禍でますます深刻さを帯びてきましたが、このテーマが私たちの生にとって何らかの導きを与えてくれればと願っています。

（授業担当 音楽学部非常勤講師 中島 那奈子）

◇発行物

『女性学評論』第35号（2021年3月発行）

（女性学インスティテュート）

学生の活動紹介

(コンクール受賞、学会発表など)

第6回デモクラシー・ナウ!学生字幕翻訳コンテスト
特別審査員賞 (2021年1月24日)

大学院 文学研究科 修士課程 1年生 2名
(英文学専攻通訳・翻訳コース)

第21回大阪国際音楽コンクール ファイナル
Age-U 歌曲コース 第2位 (1位、3位該当者なし)
(2020年10月11日)
音楽学部 音楽学科 4年生 (声楽専攻)

第14回ベートン音楽コンクール 自由曲コース
ピアノ部門 (全国大会) 大学・院生A 第2位
(2021年1月6日)
音楽学部 音楽学科 1年生 (ピアノ専攻)

第139回 NAMUE バレエコンクール 神戸
一般部門 第3位 (2020年9月22日)
音楽学部 音楽学科 2年生 (舞踊専攻)

Japan Ballet Competition
Grand Champion ships 2020
モダンダンス高校1年生以上男女部門 第2位
モダンダンス高校1年生以上男女部門 芸術賞
マイレン・トレウバエフ 審査員特別賞
Russia Ballet Workshop (日本開催) 参加権
(2020年12月28日)
音楽学部 音楽学科 4年生 (舞踊専攻)

第11回 日本バッハコンクール 地区大会
大学・大学院部門 最優秀賞 (2020年11月29日)
音楽学部 音楽学科 2年生 (ピアノ専攻)

第2回 ラフマニノフ国際ピアノコンクール JAPAN
本選 G部門 入選 (2020年12月27日)
音楽学部 音楽学科 2年生 (ピアノ専攻)

神戸女学院大学論集 (第67巻第1号), 21-34.
「SNSを使用したコミュニケーション構造の違いが
集団凝集性に及ぼす影響」

大学院 人間科学研究科 修士課程 2年生
小林 知博

日本心理臨床学会 第39回大会
(横浜国立大学・Web開催) ポスター発表
(2020年11月20日~11月26日)

「両親が行う親役割行動が子どもの家族イメージに
与える影響について」

大学院 人間科学研究科 博士課程 2年生
國吉 知子

「被害者と加害者の関係性が第三者からの評価に影
響を及ぼす要因の検討」

大学院 研修生
國吉 知子

日本心理学会第84回大会 ポスター発表
(2020年9月8日~11月2日)

「性差観は女性に化粧を義務づけ男性化粧を否定す
る」

大学院 人間科学研究科 修士課程 2年生

日本心理学会第84回大会 ポスター発表
(2020年9月8日~11月2日)

「結婚相手の不満の自覚と夫婦関係満足度の関係」
大学院 人間科学研究科 修士課程 2年生

日本心理臨床学会 第39回大会 (Web開催)
(2020年11月20日~26日)

「良いモデルを内在化させようと奮闘する5歳女児
とのプレイセラピー 副題: 児童養護施設という守
られた生活空間で安定した二者関係の再構築を目指
して」

大学院 人間科学研究科 博士課程 2年生

中高部報告

西宮市内大会 中学女子シングルスに優勝して

中学部 3年生

西宮市内中学テニス大会は、私にとってJ3の唯一の公式試合であり部活の引退試合でもありました。J1でテニス部に入ってからずっと、J3になって夏の様々な試合で戦う自分ばかり想像していましたが、コロナで総体が中止になってしまいました。最高学年なのに自粛で部活もできず、総体も無くなり落ち込みましたが、そんな私にとってテニスを頑張る唯一の希望が西宮市民大会でした。ならばこの大会で絶対に良い結果を残したい、優勝しよう、そう決意して自粛期間は毎朝走り、学校が始まったら朝練も昼練も放課後練も沢山行き、励み続けました。試合をできるのは後1回のみということが私を奮い立たせ、コロナ以前の、試合が沢山できていた時期よりも遥かにテニスを必死に練習したと思います。そして迎えた試合当日、緊張もありましたが、「するべきことは全てやったのだから、あとは頑張るだけだ」と確信していたので、怖くはありませんでした。それでも試合では何度も追い詰められた瞬間がありましたが球を返すことに集中し続けました。優勝した時は実感が湧かず夢のような気分でした。この大会を通じて、努力すれば目標は達成できるということを学び、その自信がテニス以外の様々な分野にも繋がると信じます。

いつも優しく面白く指導して下さった先生方、3年間共にテニスを頑張り最高の部活の思い出を作ってくれた赤のテニス部の皆に心から感謝しています。

地学オリンピックのススメ

高等学部 2年生

私はJ3から3年間地学オリンピックに参加してきました。地学オリンピックでは固体地球、地質、気象、海洋、天文(イメージとしては火山、地震、化石、鉱物、空、海、星といった感じのもの)を扱います。海や星などが好きな人は多いと思います。実際私も地学の勉強をはじめたのは『ジュラシックワールド』を観たのがきっかけで、気象や海洋を勉強するときには『天気の子』や旅行で見たカリフォルニアの海などを思い浮かべながらしています。このように地学は勉強しはじめやすい教科で、皆さんの好奇心をくすぐるものだと思います。地学オリンピックという大会自体にも醍醐味があります。予選を通過すると茨城県で2泊3日の合宿があります。(今年はオンラインとなりましたが…)この3日間ではたくさんの人と交流できます。化石の研究をしている人や気象予報士の資格を持っている人、他の大会でもたくさん賞をとっている賢い人など、さまざまな尊敬する人たちとトランプをしたりして本当に楽しい時間を過ごせます。私もこういった人たちに刺激を受け、今まで頑張ってきた気がします。他の科学オリンピックもそうですが、合宿ですごい人たちに出会えるというのが地学オリンピックの醍醐味だと思います。ですから、地学に少しでも興味のある方(海が好き、星が好きというだけでも十分)は地学オリンピックにぜひ参加してほしいと思います!きっと自分を成長させるいい機会になると思います。

阪神 ESS ユニオン 英語スキットコンテスト報告

S ESS 部長

私たち S ESS は2020年10月に開催された阪神 ESS ユニオン英語スキットコンテストに参加し、グレートチームワーク賞（2位相当）をいただきました。このコンテストはコロナ禍のため開催中止となったシナリオリーディングコンテストの代替として、はじめて開催されました。各団体は約5分の英語劇をビデオに取めて提出し、作品は内容・演技力・表現力・オリジナリティに基づいて審査されます。

コンテストのテーマは「ハロウィン」で、私たちは“How the Grinch Sisters Stole Halloween”という作品を発表しました。これは著名な絵本作家 Dr. Seuss さんの絵本“How the Grinch Stole Christmas!”をアレンジしたものです。人の幸せを嫌うひねくれ者のグリンチ姉妹が、ハロウィンの日に村中のお菓子や仮装用の衣装を盗みに行くのですが、ある出来事をきっかけに改心するという心温まるお話です。オリジナルの脚本作りやビデオ撮影ははじめてで戸惑うことも多かったのですが、先生方に助言をいただきながら、カメラワークや場面の切り方を工夫し、ビデオ作品だからこそできる演出を取り入れました。また、マスク着用下でも伝わる表現法を研究しました。

文化祭の舞台を終え、部員の意欲や結束力が高まった状態で、納得のいくまで撮影と編集を重ねて作品を完成させましたが、今までの舞台公演とは違う視点や手法を用いた作品作りを通して、多くの学びを得ることができました。

ご指導くださった先生方、そして貴重な機会を与えてくださった阪神 ESS ユニオンの先生方に感謝しています。本当にありがとうございました。

英語スピーチコンテストに参加して

中学部 3年生

私は、2020年11月3日(火)に開催された第28回薫英杯女子中学生英語スピーチコンテストに出場しました。この大会では、与えられた幾つかの演題の中から各一つ自由に選び、予選、本選とスピーチをします。

私は、“Music is My Life”という演題を選びました。論説文だけでなく、登場人物の感情も表現するような内容だったので、苦手だった感情表現を重点的に練習しました。最初は先生の前ですら恥ずかしく、思い通りのパフォーマンスができなかったのですが、何度も練習して自分に染み込ませるようにしました。そして本番では、自分らしく最後までやりきることができました。結果として優秀賞をいただけて心から嬉しく思います。しかし、はじめの方で少し単語をミスしてしまったのは、自分の中ではすごく悔しかったです。

「なぜこのコンテストに出場しようと思ったのですか」

受賞が決まった後の短いインタビューの時、私にはこんな質問が向けられました。まさかそんな応答があるとは知らなかった私は、本番以上に焦って、何も言うことができませんでした。もう本当に苦しい思い出ですが、私とその質問に何も言えなかったのには、恥ずかしながら出場したいという明確な理由や意志がなかったというのがあります。それでも、今回経験させていただいたことは、自分にとって良い学びとなりました。

最後に、御指導してくださった担当の先生をはじめ英語科の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

第23回兵庫県高校生英文エッセーコンテスト

高等学部 1年生

教室に英語科の先生方がいらっしゃって、「あなたが最優秀賞だったよ」と言われた時には本当に信じられませんでした。私は昨年11月におこなわれました、第23回兵庫県高校生英文エッセーコンテストに出場しました。この大会の形式は、大会当日にその場でお題が発表され、辞書を用いて自由に書いたエッセイを提出して、後日学校宛に結果が郵送されるというものでした。休み時間にいきなり、自分が最優秀賞を取ったと伝えられて、信じられず、先生方に、何度も「本当ですか？」と確かめてしまいました。

6月の中旬にスピーチやエッセイのコンテストに参加するためのトライアウトの案内があり、去年につづけて今年もやりたいと思い、参加しました。しかし、その時点では落ちてしまい、とても悔しくて、受かった友人に「おめでとう」と言うこともできずに泣いていました。けれども数日後に、この大会の案内が来て、参加できることになりました。

練習がはじまってからは、エッセイがなかなか最後までうまく書けず、先生方に迷惑をかけたり、泣いたりもしました。何度も諦めようと思い、弱気になることがありました。けれども、そんな私に最後まで根気よく指導してくださって、「できないと思ったら本当にできなくなるよ」と応援してくださった英語科の先生方にはとても感謝しています。最後まであきらめなくてよかったと思います。本当にありがとうございました。

衛星設計コンテスト
日本宇宙フォーラム賞

高等学部 2年生

衛星設計コンテストは、高校生から大学院生が、衛星設計だけでなく、宇宙での実験など幅広いアイデアを競うもので、専門家からアドバイスをいただけ、提案した人工衛星を打ち上げる機会も与えられるかもしれない、他にはない大会です。

小学生の時から宇宙が好きで、宇宙工学を学びたいと思っている私は、臨時休校中にこのコンテストの存在を知り、この機会を逃すわけにはいかないと参加を決めました。提案したい内容は、宇宙関連の番組を見ている際に思いついた火星探査車を砂嵐から守るための傘です。2020年7月の一次審査の際は、形状や材料、仕組みを考えレポートにし、提出しました。通過の知らせに喜んだのも束の間、もっとデータが必要との指摘をいただき、シミュレーションや模型作りなど、はじめてのことにも挑戦しながらレポートを書き直し、最終審査に挑みました。10月末のオンライン発表会では、通信トラブルに焦りましたが、無事終えることができました。審査員の方々の質疑応答は貴重な体験でしたし、他の参加者の発表、憧れの宇宙飛行士山崎直子さんの講演も聴くことができ、とても有意義な時間を過ごしました。チームではなく一人での参加だったため、作業が遅れがちで徹夜続きでしたが、結果を聞いて嬉しさのあまり疲れも吹き飛びました。苦労も多かったですが、やりきった達成感は何にも代えられません。

この体験ができたことを感謝いたします。

第53回私学の書展

高等学部 2年生

私は2020年11月、第53回私学の書展に作品を出展し、特選一休園賞をいただきました。出品した作品はかな書道です。

かな書道をはじめたのは、高校にあがってからです。はじめは、一文字一文字を綺麗にお手本通りに書く漢字の方が好きでした。かなは書いた後、どこを直したほうがいいのかどこが上手に書けたのかが自分で見ても分からなくて、なかなか慣れなかったです。かなの練習は、文字と文字のつなぎ方や全体のバランスを考えて、自然と筆が次に進むようになるまで何回も練習します。何回も練習していると、筆の力加減で、繊細なかなの優しさを表現するのが楽しくなって、字だけでなく、文字の配置や空白部分、紙全体で作品になるかなが大好きになっていました。作品を、一文字一文字ではなく全体を見るようになりました。書道はただお手本通りに書けばいいと思っていた私は、お手本に近づけながら文字に自分の気持ちを入れて書くということを初めて知って、大好きだった書道がもっと大好きになりました。

私学の書展は、今までにも2回特選をいただいたことがあり、席上揮毫という貴重な体験をさせてもらったことのある、思い入れのある展覧会だったので、しっかり練習に取り組むことができました。毎回の大会のたびにひとりずつ違う歌のかなのお手本を用意して下さり、そして、私にかなの楽しさを教えてくださった先生に感謝しています。これからも書道を頑張ります。

墨運堂賞を受賞して

高等学部 2年生

第53回私学の書展において、墨運堂賞をいただきました。今回は仮名の作品ということで、行の流れと、墨の掠れ具合に注意して、立体感や奥行きを感じる作品を目指して練習しました。

はじめは掠れをうまく出せず、濃淡のバランスを整えるのに苦労しましたが、練習するうちに少しずつまとまりが出てきました。先生から添削を受けるたびに、偏やつくりの位置、筆遣い、大きさなどすべてに意味があることを実感しました。先生は「同じお手本で練習していても、見え方が変わってくる」と話してくださいましたが、本当にその通りです。ひとつ課題を乗り越えようと、今までさほど意識していなかった部分にも目を向けるようになり、また新たな課題が見つかりました。そこで、一枚一枚注意深くお手本を見て、考えながら作品を書くことを、今まで以上に意識するようになりました。

また、この作品を書く過程で、墨をすりながら丁度良い濃さを探ったり、筆を保管する方法を変えて、新たな掠れを出そうとしたりしました。すぐに上手くいくものではありませんが、このような工夫を通してより一層書道を楽しむことができたように思います。

今回、思いがけず賞をいただいたものの、反省点や改善点は本当に数えきれないほどあります。書道部を引退するまでのあと半年、真摯にお手本と向き合いながら、納得のいく作品を作っていきたいです。

租税教育推進校として署賞受賞

神戸女学院中学部が租税教育推進校として、西宮税務署長から署賞を表彰されました。2013年より再び神戸女学院でお世話になりはじめて以来、租税教育に取り組んできた成果が表れて嬉しく存じます。

1995年から6年間中高部でお世話になっていた頃は、租税教育に関しては真逆のアプローチをしておりました。納税が私たちの生活を支えるうえで、必要不可欠で重要な基盤であるという認識を強めたのは、12年間の在英経験が大きく影響しています。英国は、日本と比較して様々な税金の税率が高いのですが、その分、大英博物館をはじめとする多くの博物館・美術館の入館料は無料です。特にナショナル・ギャラリー（美術館の一つ）は「名画」が多数所蔵されています。在英中、この美術館の絵画を鑑賞するため、何度も足を運びました。気軽にこういった名画を鑑賞できるのも税金のお陰なのだと、認識しなおすきっかけとなりました。

2013年から再び神戸女学院で教えはじめた際、単に租税の仕組みを教えるだけでなく、租税は民主主義社会と密接な関係があること、高率の税額を納める際には、確固たる民主主義的基盤が必要不可欠であること、また高率の税額が我々にとって不利益に働く可能性もあるので、租税の仕組みを熟知することが我々一人一人に求められること等を教えるようになりました。これからはますます租税教育を充実したものにしていきたいと存じます。

(中高部教諭)

キャリアガイダンス講演会

2020年12月17日(木)、「2020年度キャリアガイダンス・プログラム第1回」をおこないました。

今回は、中高部卒業生で、現在情報科学の分野でご活躍の藤原香織様にご講演していただきました。ご講演の前半は藤原様に情報科学の魅力をお話いただき、後半は生徒からの質問に答えていただきました。

キャリアガイダンス・プログラムでは、例年、講師の先生を講堂にお招きし、全校生徒が講堂に集まってお話を聴いていました。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により講堂での開催が難しくなったため、オンラインでの開催となり、生徒は特別教室や各々のホームルームに分散してお話を聴きました。キャリアガイダンス・プログラムをオンラインでおこなうのは初めての試みでしたが、生徒は熱心にお話を聴き、積極的に質問しており、大変充実したプログラムとなりました。

今回のご講演は、生徒にとって、将来社会でどのような役割を担い貢献していくのか、そのために今後どのように過ごしたらよいのかを考える大変よい機会になったのではないかと思います。

ご講演を引き受けてくださった藤原様に、心より感謝申し上げます。

(中高部教諭)

何とか開催、もみの木の集い

2020年12月21日(月)、Jもみの木の集いが開催されました。新型コロナウイルスの感染防止対策をしながらの開催でした。座席の間を空けて、J2、J3は講堂、J1はコムホールでの遠隔視聴という今までにない形での公演となりました。様々な行事が中止になり、この公演は全体の進行をおこなうJ文化部生徒にとっては最初で最後の舞台進行でした。そのような制限の中でも、会場で声を出さないことや、マスク着用での出し物など、生徒たちは出演者も観客も精一杯楽しもうと協力してくれました。特にJ文化部の生徒たちは安全な公演のために何度も計画を練り直し、映像でできるところを映像にするなど、様々な工夫をして本番に臨みました。公演終了後、出演者から文化部に感謝を伝えるサプライズ・セレモニーがあり、文化部の生徒たちは涙を流して成功を噛みしめていました。裏方としての見えない努力が報われた瞬間だったのではないのでしょうか。

(中高部教諭)

S聖なる集い

2020年度の「聖なる集い」は12月16日(水)に開催されました。例年の「聖なる集い」には、「各クラスによる讃美歌コンクール」と「クラブ・有志団体による発表」の両方がありますが、今年度は新型コロナウイルス感染症のために讃美歌コンクールを開催することができませんでした。クラブ・有志団体による舞台には、6つのクラブ(軽音楽部、プラスバンド部、コーラス部、ESS部、ギター部、ダンス部。出演順)と5つの有志団体(すだっちー〈バンド〉、D/DK〈ダンス〉、もってい〜ず。〈ダンス〉、Pene Lope〈バイオリン〉、hommage〈バンド〉。同)が出演しました。出演者はマスクをつけて舞台上がり、客席は歓声の代わりに拍手とペンライトで反応していました。S1とS2が講堂、S3はコムホールで映像を鑑賞する形での開催でした。

S文化部にとっては、幹部がS3からS2に交代して初めての行事でした。換気のしかたなど直前になって決まったことにも冷静に対応し、おおむねスムーズに進められたのではないかと思います。当日の映像配信や換気をはじめ、準備段階から多くの先生方、職員の方々にお世話になりました。

讃美歌コンクールはありませんでしたが、クリスマスの曲を披露した音楽系の出演団体も少なくなく、「聖なる集い」らしい雰囲気が生み出されていました。S3と共に集えなかったことだけが心残りです。

(S文化部顧問)

＜先輩からのメッセージ＞

情報科学を仕事にすること

藤原 香織
(中高部卒業)

私は1997年に中高部を卒業した後、大学・大学院では情報工学を専攻し、研究者、ソフトウェアエンジニアなどを経て、現在は、自社製品をユーザーの皆さんが安心・安全に使えるようにするためのアナリストの仕事をしています。

先日、中高部のキャリアガイダンスで、情報科学とはコンピューターで何ができるかを考える学問で、応用範囲は広がっている、という講演をさせていただきました。実際、私が大学に入学した当時は、グーグル検索もないどころか、インターネットも全ての家庭になかった時代ですから、今と比べると、信じられないぐらい成長している分野です。手に職として工学部、その中で流行り出したから情報工学、という軽い気持ちで選んだ進路でしたが、今でも日々面白く働いています。

海外に転籍や就職をする同僚・元同僚も何人もおり、情報科学分野の人材の需要の広さも感じています。中高時代、特に最後の2年間は英語の定期テストでは常に平均点以下しか取れなかった私ですが、神戸女学院のおかげである程度の英語が身についたようで、私も今では仕事ではほぼ英語のみ、昨年初頭までは年に数回海外出張をすることもありましたが、今は東京にいながら、オンラインで海外のオフィスの同僚たちと一緒に仕事をしています。

先日の講演を通じて、後輩の皆様の中で、情報科学に興味を持っていただけの方がいらっしゃれば、嬉しく思います。



出張先のニューヨークオフィスからの景色

岡田山で学んだ広い世界

袖野 美穂
(小児科医師・中高部卒業)

「赤ちゃんや子どもが助かってほしい」、それは世界共通の願いです。しかし、この願いがなかなか叶わない場所が世界にはまだまだたくさんあります。

国境なき医師団の小児科医師としてイエメン共和国での活動を経て、今は二国間・多国間の国際医療協力に携わっています。イエメン共和国は世界最悪の人道危機と呼ばれる、紛争が長く続く国です。多くの子どもたちが栄養不足で痩せ細り、もし日本で生まれていたら助かるであろう小さな赤ちゃんが、毎日命を落とします。日々戦場から運ばれてくる負傷兵や頭上を飛ぶ偵察機の轟音の中で、異なる宗教・世界観のスタッフと共に、試行錯誤しながら小児診療に取り組みました。

難民や紛争国の患者家族、医療従事者と出会う中で、どんなに辛い状況にあっても一握りの希望があればまた立ち上がることができる、ひとは強い生き物だと感じています。その一握りの希望になれるよう、自分自身の時間を使いたい。国内外を問わず、退院する子どもと笑顔の家族を見送るとき、小児科医師をしていて良かったなと改めて感じます。

岡田山での日々の礼拝や授業で、愛神愛隣の「隣」の裾野の広さを学びました。求め、探し、門を叩き続ける挑戦の精神を教えてくれた岡田山での学びや経験に感謝しています。在校生の皆様は、様々な立場や意見の異なる方々と交わりながら広い世界に触れ、貴重な6年間を大切にお過ごしください。



退院する赤ちゃんと一緒に ©MSF

マロニエ賞

スポーツ、文化等の各分野で顕著な成績をあげた県下の知事所轄の私立学校に在籍する園児・児童・生徒及び教職員等に対して贈られるものがマロニエ賞です。マロニエはトチノキのフランス名で、この木には樹脂があってねばります。これは粘り強い努力に通じ、また種子の持つシブ（アク）は個性的な私学にふさわしいものであり、マロニエの花の花言葉は「天分・天才」であるところから、文化・スポーツ等の分野で活躍した生徒・教職員を表彰する制度の名称にふさわしいものとして用いられたものです。

2020年12月24日(木)午後3時～5時に兵庫県公館にて、授賞式がおこなわれました。本校からは、2チームと、5名の個人が受賞しました。

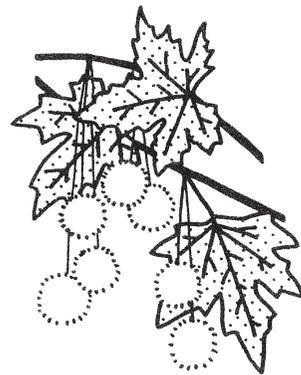
チームとしては、アメリカのイェール大学でおこなわれた“World Scholar’s Cup Tournament of Champions”に出場した Team 602（メンバーはS3生徒2名／Team Bowlで団体銀メダル）、Team 617（メンバーはS2生徒3名／Team Writingで団体銀メダル）に対して受賞しました。

個人としては、S3生徒（第9回ヨーロッパ女子数学オリンピック2020オランダ大会日本代表）、S3生徒（“World Scholar’s Cup Tournament of Champions Challenge History”個人銀メダル）、S2生徒（“World Scholar’s Cup Tournament of Champions Challenge Arts”個人金メダル、“Challenge Literature”個人金メダル、“Challenge Social Studies”個人銀メダル）、S2生徒（“World Scholar’s Cup Tournament of Champions Writing Champions”個人金メダル、“School’s Top Scholar”個人金メダル）、J3生徒（第44回スポーツチャンバラ世界選手権大会“SPOCHAN WORLD CHAMPIONSHIP”でレディース小太刀1-10級の部で世界チャンピオン）に対して受賞しました。

金澤副知事から、一人一人に賞状が授与され、その後受賞した各学校の学校長が成績報告をし、副知事からお祝いの言葉をいただき、最後にみんなで記念撮影をして終了しました。

小雨が降る日でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のために密を避けるように設置された椅子に座り、本校の生徒たちが受賞する姿を見るのは、とてもうれしく誇りに思う1日でした。

(中高部長 森谷 典史)



第55回中高部長賞 第36回文化・スポーツ賞

中高部では、学内のクラブ活動で多大な成果をあげたクラブ・団体に中高部長賞を、学内外を問わず多大な活躍をした生徒に文化・スポーツ賞を授与しています。

中高部長賞とは、中学部と高等学部に分けて、すべてのクラブの1年間の活動資料（クラブノートの内容や活動状況、またクラブ部長生徒や顧問教員による自己評価）に基づき、中高部長や中高部教員で組織された選考委員会で選考されたクラブに授与する賞です。高等学部では昨年度より1学期の終業日に、中学部では2学期の終業日に授与しています。受賞クラブには表彰状と盾、副賞の5,000円が贈呈されました。

第55回中高部長賞

SESS部、S手芸部、Sバスケットボール部
JESS部、J軽音楽部、Jバドミントン部

文化・スポーツ賞とは、前年度の1月末からの1年間を通し、中高部の代表として各大会等に参加し、西宮・阪神地区で1位、また兵庫県・関西・近畿・全国、世界で3位以内の賞を獲得した中から、中高部長や中高部教員で組織された選考委員会で選考された個人や団体に授与する賞です。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により学外の催し自体が少ない状況でしたが、そのような中で中高部生は努力を重ねました。その結果として以下の17名の生徒に文化賞を、20名の生徒にスポーツ賞を授与しました。

第36回文化賞（17名）

☆阪神ESSユニオン

プレゼンテーションコンテスト 優勝

☆第30回日本数学オリンピック

EGMO2020オランダ大会日本代表

☆第22回あけてニッコリわくわくお弁当コンテスト

震災25年特別賞

☆第36回成田山全国競書大会 成田山賞

☆日本生徒会大賞2020 奨励賞（全国3位相当）

☆第12回日本地学オリンピック国内大会

文部科学大臣特別賞

☆第53回 私学の書展

特選一休園賞

特選墨運堂賞

☆第23回兵庫県高校生英語エッセーコンテスト

最優秀賞

優秀賞

☆税の書道

西宮・宝塚租税教育推進協議会賞

西宮納税貯蓄組合連合会会長賞

☆中学生の「税についての作文」

兵庫県納税貯蓄組合総連合会会長賞

西宮・宝塚租税教育推進協議会賞

☆薫英杯中学生女子スピーチコンテスト 優秀賞

☆第59回全国高等学校生徒英作文コンテスト

1年の部 最優秀賞

2、3年の部 優良賞

☆第66回青少年読書感想文兵庫県コンクール

兵庫県教育委員会賞

第36回スポーツ賞（20名）

☆第7回兵庫県中学校冬季テニス大会（団体戦）

第3位

☆第73回西宮市民体育大会テニス大会

少女シングルス 優勝

☆第17回兵庫県中学校秋季テニス大会学校対抗の部

第3位

中高部長賞、文化・スポーツ賞は、生徒のクラブ活動や学校生活での活性化を願い、生徒の努力を称えることが目的です。受賞者の皆さん、おめでとうございます。来年度もたくさんの受賞者が選出されることを願っております。

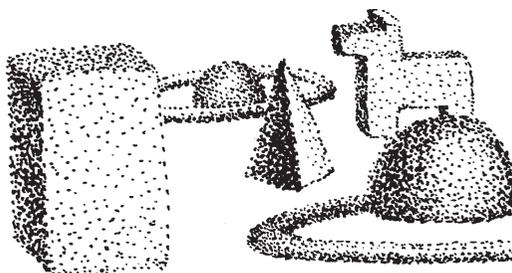
（中高部教諭）

2021年度中学部入学試験結果報告

日程：2021年1月16日(土)・18日(月)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	手続完了者数
135	272	265	154	146

(中高部事務室)



<課外活動紹介>

[クラブ] **Jバドミントン部**

中学部 3年生

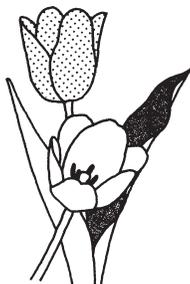
仲間と過ごした日々

2020年8月8日(土)の引退試合が終わった後、私たちは試合会場近くの海辺で部活生活を振り返り、自分たちの思い出や本音を語り合いました。海の景色がそう感じさせたのか、その時の友人の涙はとても綺麗で、感慨深かったのを覚えています。半袖・半パンのユニフォームのまま何時間も思い出に浸り、帰る頃には皆すっかり日焼けしてしまいましたが、そこには言葉で表せない清々しく身に染みる何かがありました。決して順風満帆な部活生活とは言えませんが、このメンバーで引退できたことを強く誇りに思います。

[クラブ] **Jコーラス部**

中学部 2年生

私たちJコーラス部は、2年生7人、1年生9人の計16人で、週に3日活動しています。中高部内の行事の他、学院クリスマス礼拝、他校との合同演奏会、ヴォーカルアンサンブルコンテストなど出演する舞台に向けて、合唱曲や讃美歌、J-POPなど、様々な曲を練習しています。学年を超えて部員同士の仲が良く、アットホームな雰囲気があるのがJコーラス部の魅力です。皆で息を合わせて一曲を作り上げるのは大変ですが、その分とても大きな達成感を得ることができます。



[クラブ]

Sテニス部

高等学部 2年生

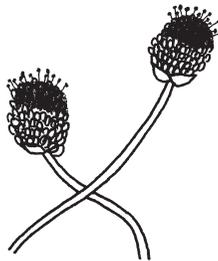
Sテニス部は現在合計17人の部員が所属しており、年に3、4回おこなわれる団体戦や個人戦にむけて週に1～2回活動しています。部員同士の仲はとて良く、アットホームな雰囲気で練習に励んでいます。近年は様々な試合で結果を取っており、毎年夏におこなわれる女子団体戦阪神リーグでは2年連続で優勝し、五部から三部へ昇格しました。試合数が多いので、自分の力を試す機会が多く得られるのもこのクラブの魅力の一つです。汗を流しながら仲間とテニスに励む日々は、大切な思い出となります。

[クラブ]

S軽音楽部

高等学部 1年生

S軽音楽部は、高等学部1～3年生合わせて30人の音楽好きが仲良く楽しく活動しています。舞台はバザー・文化祭・聖なる集い・フェアウェルコンサートのに4回。音楽は勿論、ステージの装飾なども自分たちでやっていくので舞台後の達成感はとて大きいです。是非、私たちのステージを見に来てください！



〈学院日誌〉

1月8日(金)	中高部始業日 中高部教員会議	2月24日(水)	理事会 中高部教員会議
1月14日(木)	中高部臨時教員会議	3月2日(火)	高等学部卒業式
1月15日(金)	教授会	3月5日(金)	教授会
1月16日(土)~17日(日)	大学入学共通テスト	3月8日(月)	文学部・人間科学部一般選抜〈後期日程〉
1月16日(土)・18日(月)	中学部入学試験	3月10日(水)	中高部教員会議
1月27日(水)	理事会 文学部・人間科学部一般選抜〈前期A日程〉 中高部教員会議	3月18日(木)	大学卒業式・大学院修士学位記授与式
1月27日(水)~28日(木)	音楽学部一般選抜〈前期A日程〉	3月21日(日)	オープンキャンパス
1月28日(木)	文学部・人間科学部一般選抜〈前期B日程〉	3月24日(水)	理事会 評議員会 臨時理事会
2月10日(水)	中高部教員会議	3月25日(木)	中高部教員会議
2月16日(火)	文学部・人間科学部一般選抜〈前期C・D日程〉	3月26日(金)	中学部卒業式・終業式
2月19日(金)	教授会		

目 次

感謝のとき	1
150周年記念ロゴマークが決定しました	3
KCC だより	4
<追悼>小玉 佐智子先生	7
2021年度年間標語	7
クリスマス報告	8
史料室の窓・キャンパス探訪(6)	14
大学報告	
コロナ禍で学びを継続させるための取り組み	15
文学部講演会「未来への原点」を開催	17
「ミュージック・コミュニケーション講座」に大友直人氏が講師として来訪	17
第11回絵本翻訳コンクール	18
「神戸女学院の100冊」書評コンテスト	18
2020年度音楽学部定期演奏会	19
第12回舞踊専攻卒業公演	20
大学クローバー賞表彰式	21
2020年度めぐみ会賞	21
2021年度大学入試結果中間報告(2/25現在)	44
研究所活動報告	45
女性学インスティテュート活動報告	46

学生の活動紹介	47
中高部報告	
西宮市内大会 中学女子シングルスに優勝して	48
地学オリンピックのススメ	48
阪神 ESS ユニオン英語スキットコンテスト報告	49
英語スピーチコンテストに参加して	49
第23回兵庫県高校生英文エッセーコンテスト	50
衛星設計コンテスト日本宇宙フォーラム賞	50
第53回私学の書展	51
墨運堂賞を受賞して	51
租税教育推進校として署賞受賞	52
キャリアガイダンス講演会	52
何とか開催、もみの木の集い	53
S聖なる集い	53
先輩からのメッセージ	54
マロニエ賞	55
第55回中高部長賞、第36回文化・スポーツ賞	56
2021年度中学部入学試験結果報告	57
課外活動紹介	58
学院日誌	60

下記ページは個人情報保護等のため掲載しておりません。ご了承ください。

10, 22, 35, 37, 42, 43